

令和7年度第1回港北高校学校運営協議会 議事録

令和7年6月23日開催

1 資料

- (1) 令和7年度港北高等学校学校運営協議会委員名簿
- (2) 令和7年度学校運営協議会運営計画書
- (3) 神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営等に関する要綱

2 校長挨拶

お忙しい所ありがとうございます。6月の体育祭では、玉入れを小学生と一緒にできました。児童とのふれあいにより得られるものがありました。思港祭もぜひお越しください。

部活動では陸上競技部が関東大会に出場し、本校3年生が2位。インターハイへ出場します。また、書道部・放送部からも全国高等学校総合文化祭に生徒が参加します。

3 議事

1 学校運営協議会について

「神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営等に関する要綱」に従って設置、年3回の協議会開催を予定。

2 令和6年度の取組結果及

3 令和7年度の目標設定について 2, 3は各担当グループより説明

【学習支援グループ】

教育課程・学習指導について、科目選択作業のDX化を昨年度は進め、概ね良好であった。今年度は昨年度の結果を受け、DX化を他の場面でも含め推進していきたい。

【生徒支援グループ】

学校評価報告書の生徒指導・支援について、本校の生徒たちは基本的な生活習慣は確立されており、部活動でも活躍している。

普段問題となることのない生徒が指導の対象となることもある。生徒指導は家庭の問題とも深くかかわっている。更に良い生徒支援に励んでいきたい。

【進路支援グループ】

大学進学者が多く、進学準備を含めると95%になる。専門学校進学者も最初は大学を目指していた。方向性としては四年制年大学を見据えて指導している。

小論文指導、分野別説明会等を実施し、将来を理解したうえでの大学選択をするよう情報発信をしている。

【活動支援グループ】

生徒が主体的に活動できるようにしている。予算についても活動費など見直しながら活動している。今年度も生徒が課題に向き合いながら解決できるようにサポートしていきたい。

ICTを取り入れて生徒に活動してもらうよう働きかけていく。

【開発・広報グループ】

授業力向上、学校広報、地域連携を担当している。職員の意識改革を図るため、教科横断の会議を持っている。総合的な探究の時間については、新たな形式で実施し、現3年生が集大成である。学年ごとに反省を生かし、改善を図っている。

ホームページ更新については、頻回な更新で新しい情報を発信している。

地域連携においては、体育祭での小学生との連携は、生徒の刺激となっていた。学力以外の成長にむけ、地域連携は重点的に行いたい。

【管理運営グループ】

教室整備、ICTの機器の整備を中心に行っている。環境が改善されたので、それらを維持できるよう努力したい。

【その他学校管理等について】

働き方改革、事故不祥事防止については、昨年度に引き続き行っていく。

4 質疑・意見交換

○電子黒板の配置についてどのように使っているか教えてほしい。全県に配備されているのか。

→ 3年間で全県配備。本校は早期に導入された。教員によってはプロジェクターと併用することもあるが、画面の大きさ等含めて電子黒板の利用率が高い。資料の提示や、生徒の端末でも視聴可能である。学校によっては配備されていても使っていないところもあると聞いている。

○主語が「生徒」である学校目標は、生徒中心で取り組んでいることがとても良いポイント。今後も続けていただきたい。精神面、金銭面で厳しい生徒への対応について伺いたい。精神面で支援が必要な生徒への対処・情報共有方法はどのように行っているか。また、金銭面：進学を諦める生徒はいるのか。

→ メンタルの面で支援が必要な生徒はいる。担任、保護者、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとも連携し、段階を踏んで相手に寄り添いつつ外部の機関とも連携を図っている。教育相談コーディネーターとも協力し、学年を横断して話し合い、キャッチボールしながら解決を模索している。

奨学金の審査・申請の取次を行っている中から厳しい状況がわかることがある。アルバイトで進学資金を工面する生徒もいる。奨学金の場合、ローン(借金)になってしまって、リスクも考えて申請するよう指導している。

→ 教育相談体制は、各学年計6名の教育相談コーディネーターを配置している。

コーディネーターは課題を抱える生徒が学校から離れないようにコーディネートをしている。担任と生徒をつなぐ、カウンセリングが必要であればSC・SSWと生徒をつなげていくことも仕事である。保護者との関係をコーディネートすることもある。

生徒の状況を踏まえての取組を行っている。スクールカウンセラーとの振り返りもしっかりと行っている。

- 以前県の校長研修において、学校ではたくさんある目標を全てやろうとするのではなく、一点に絞って中心的に実施して、これがうまくいくと全面的に良くなる。これを一点突破全面展開と表現していた。港北高校の一点突破全面展開の方向性が、ホームページの特色欄に出ていると感じる。このままよりよく進めていただきたい。
　　全国の先進的な取組をぜひ、ベンチマークしてもらいたい。他の学校のよいところも是非吸収し、活用してみてほしい。
 - 体育祭に参加した小学2年生からメッセージが届くので渡してほしい。高校生ほど年の離れた兄弟がいる児童は少ないので良い機会だった。地域清掃は、今年もお願いしたい。区役所の地域防災担当では、清掃用具も借りりうるので、役所の力も借りていけると良いと思う。
 - DX化は小学校も進んでいる。得意な人とそうでない人がいるので、チームで日常化を図るために、次のステップへ進んでいくことを考えて行く必要がある。個人のツールとして使えるようにするにはどうしたらよいかを考えている。DXに関して詳しく聞きたい。
　　→ 選択科目のやり取りを紙ではなく電子フォームで行ったり、全公立展ではQ&Aを紙ではなくQRコードで対応したりしている。学年の授業参観では、QRコードで出欠確認をした。各学年・教科でICTに詳しい教員を中心に進めている。懇談会のお知らせや卒業式の出欠確認も配信やアプリで実施している。
- コピーが減ると教員の負担は削減されますか？
　　→ 教員負担が減っている実感はある。どうしても必要なものは紙で配っている。
- 部活動の指導で生徒を見続けるのは大変だし、横断幕を作ることができる位の結果（上位大会への出場）を出すのも大変である。先生の個人技術力のみで部活の成果が出ているのか、それとも外部から指導者を招き、質を高めているのか。部活動の成果を維持するために、先生の負担がないのかどうか。
　　→ 顧問の支える力は必要である。外部指導者に来ていただいている部もあり、その方々の力もある。専門家がない部は顧問で分担しながら部活動指導にあたっている。
 - 働き方改革に抵触しないのか。もっと、外部指導者を活用したほうが良いのではないか。
　　→ 中学校は地域移行を押し出しているが、地域差がある。過去に国として頓挫した経緯もあるので、中学でうまく行けば高校でも実施する予定だが、いつから高校で実施できるかは未知数である。
 - 先ほど、学力以外の能力の向上について話があったが、第三の居場所として私たちの地域拠点を活用してもらいたい。乳幼児との関わりでは、自分で考えながら主体的に動き、その結果自分が役立つという自己肯定感につながる。
　　子育て家庭から大変さだけでなく喜びの気持ちを聞くことで、親子関係を見つめ直せる機会となっていると、現場としては思っている。今後も継続して行いたい。まだまだ、子育て支援拠点やボランティアそのものの敷居が高いかもしれない。もっと機会をつくっていけたらよいと思っている。

以上